

感謝の言葉

「なんだかんだの神田です」との一言で、さまざまな場を和やかにしてくださった神田先生が、今年度をもってご定年を迎えられます。

神田健次先生は 1983 年に神学部助手として就任以来、今日にいたるまで 33 年の長きにわたって神学教育に従事してこられました。ご担当分野は実践神学です。93 年に教授に昇任なされ、その後 97 年に神学研究科前期課程指導教員、2003 年には神学研究科後期課程の指導教員となり、研究科の教育も担ってこられています。また 2001 年度から 04 年度、さらに 2008 年度から 09 年度に神学部長として汗を流され、とりわけ 2004 年度にはコース制のスタートを実施なさいました。その他、たとえば学院史編纂室長や RCC センター長として関西学院に貢献なさっています。研究面ではとくに聖餐論とエキュメニズムの分野において著名であり、さらに民藝運動についても研究を発表なさっています。単著としては『現代の聖餐論 — エキュメニカル運動の軌跡から』（日本基督教団出版局）、そして関西学院を創立した W・R・ランバス宣教師の研究成果である『W・R・ランバスの使命と関西学院の鉱脈』（関西学院大学出版会）の二冊を挙げるができます。さらに大学のそとでは日本基督教学会の理事として長年にわたり尽力なされ、学会活動も積極的に担ってこられました。育成なさった学生は数多くおり、伝道者として教会担任教師となる者、さらに後期課程に進学し、学位論文を仕上げた者もいます。『神学研究』の本号は神田健次先生の退任記念号として企画されたものですが、先生ゆかりの 8 名の研究者が論考を寄稿してくださっています。先生の指導に恩義を感じる者がかくも大勢であることをあらためて認識させられました。そして、学部チャペルでは、コーヒー・チャペルなるものを開発し、コーヒーを頂きながら福音に耳を傾けるという独自のチャペル方式を編み出されました。出席した多くの学生たちは、授業の合間のひとときを安らぎのうちに過ごすことができたようです。

この三月末日をもって神田先生が私どもの学び舎を去るのは残念に思います。学部を代表して、長年にわたるご教育について感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

2017 年 1 月 16 日

神学部長 土 井 健 司